

# 檜の会

平成十八年  
霜月・師走  
第二十号

NPO 法人「檜の会」事務局  
京・東山やすい松小路  
TEL/FAX 〇七五・五五・〇八〇三

皆様のご意見、ご投稿など  
お待ちしております。  
E-mail: [BS03240@f-y.com](mailto:BS03240@f-y.com)

企画・編集/檜の会会報編集室  
発行日/隔月二十五日  
<http://vill.ige.infnweb.ne.jp/~hinoki/>

## 高台寺の歴史

後藤典生

### ねねと高台寺

高台寺を創建したねねは、どもまでも明るく、人々に愛された女性であり、生涯を通じてその庶民的な性格は変わることがなかったと言われている。結婚後、夫である秀吉は破竹の勢いで出世し、十二年後には長浜城の城主となり、ついには戦国の世を制覇する。天正十三年（一五八五）秀吉が関白に叙任されたことに伴い、ねねは北政所という総称で呼ばれるようになる。結婚してから二十四年目のことであった。

慶長三年（一五九八）八月十八日、伏見城で秀吉が病没した。秀吉六十三歳ねね五十歳の時である。翌年ねねは秀頼、淀殿に大阪城を譲り、京の町へ移り住む。そして阿弥陀ヶ峰の豊国社（秀吉が祀られた神社）や、母の朝日の菩提寺である康徳寺に足繁く通い、二人の冥福を祈る日々を送っていたようだ。関ヶ原の合戦が終わり、混乱も落ち着いた慶長墓を併せて、新しい寺院を建立して、亡夫の菩提を弔おうと動きはじめた。

日頃からねねの人柄に敬服していた徳川家康は、酒井忠世、土井利勝を高台寺造管御用掛、京都所司代板倉勝重を普請奉行、堀監物直政を普請掛に任じ、財を惜しまず協力したと言われている。

福島正則、加藤清正、浅野長政などの北政所が我が子同然に可愛がった大名たちも働いた。

秀吉との思い出に残る伏見城からは、清正が建てた薬医門や、利休居士の意匠と伝えられる傘亭、時雨亭の二つの茶室などが移築された。化粧御殿と前庭

は現在の高台寺圓徳院に移され、北政所が移り住むこととなる。そして慶長十一年（一六〇六）鷲峰山（じゅぶさん）高台寺が落慶する。全盛期の高台寺は伏見城からの殿舎移築を基盤にただけあって豪華絢爛を極め、敷地は九五、四七〇坪であった。残念ながら堂宇の大部分は、江戸中期から大正に起きた火災により焼失してしまったが、現在では、表門開山堂、霊屋、観月台、時雨亭、傘亭、小堀遠州作の庭園、そして塔頭圓徳院の本堂と化粧御殿跡の前庭に、往時の姿を見ることが出来る。（高台寺執事）

### 「お知らせ」【お問い合わせは、当会事務局まで】

この度国の重要文化財保存技術保持者である「雅楽器師」の山田全一氏を  
当会の名誉顧問にお迎えいたしました。

#### 檜の会主催

##### 新春芸文交流会（予告）

日時 一月二十七日（土）午後五時より  
会場 「花樂」祇園八坂神社南門前 〇七五 五五五 一六〇〇  
祝舞 花柳双喜美（当会理事長）  
ゲスト 月桂冠名誉顧問 栗山一秀氏  
会費 八、〇〇〇円  
申込 後日案内

#### 会員関連催事

##### 第五回互流会主催 煎茶会（有料）

日時 十二月三日（日）午前十時～午後三時  
会場 平安神宮 京都市左京区岡崎西天王町

##### 第九十九回 サロンド・むらまちセミナー

泊舟のほろ酔い夜囃「ぶらり木屋町・白川あたり」  
日時 十二月八日（金）午後六時～午後八時  
会場 座・パレスサイドホテル 〇七五 四一五 八八八九  
会費 六、〇〇〇円（食事代）

# 雅 楽

雅楽は、本来唐楽、胡楽、韓楽の伝来によるものであったが、後に日本化の要請を受けたなかで、久米舞をはじめとする民族舞踊「胡蝶」などの日本人の手による新作、催馬楽のような民族歌謡、朗詠などの文芸的語りものなどを含むようになった。

それらは、宮廷楽舞として伝承されるのであるが、そのなかで、外来楽舞も日本化される傾向が顕著である。例えば韓楽のような本来三拍子であるべきはずのものも、三拍子を三連音符化して一拍子として扱い、全体を二拍子の音楽におきかえて舞われるようになっていく。

雅楽には、左舞（唐胡楽系）右舞（韓倭楽系）の二つの区分があり、それぞれ楽器の編成も異にするが、総体の印象として、左舞は流線的な身体の扱いが目立ち、右舞は動きが角張って見えることが多い。これも日本化・農民舞踊化のひとつの表れであろうが、帰化人が半数近くを占めていた宮廷以外では、雅楽はそれほど愛されず、むしろ神社における祭祀音楽、雅楽舞踊として、敬して遠ざけられることが多かった。こうして雅楽は一般化することなく、天皇家の式楽としてのみ用いられ、やがて衰退していく。

その雅楽も農民芸術（倭人芸術）の盛んになった鎌倉・室町期にはまったく閉息し、ようやく徳川期になって能の式楽化と呼応するように保護の手が加えられるようになった。このように雅楽には、断絶と再興の現象が認められる。また、当時味というものが、東や大和や諸県に一般的に民族芸術として伝わり広域に亘って広まったものか、それらの舞と、筑紫の味とが同一内容のものだったのかそれともそれぞれまったく違うものだったのか、その証明は困難である。しかし、神楽（雅楽の重要な演目をなす）などと違って、五節舞、東舞、倭舞、筑紫舞、などは一様に舞と名称づけられているのであるから、舞（味）として同一ジャンルに包括できる要素は持っていたものと思われる。逆に侵略王朝の異国の神を祀るための儀式の楽である雅楽が、その後の伝統の断絶や異風の民俗化という現象によって、たぶん日本化されていたとしても、もともと異国の音楽や異風の舞踊だったとは容易に想像できる。五節舞が悠紀・主基の神田にかかわる舞である

こと自体、農民芸術とのかかわりが想像されるし、東や大和や筑紫が米産地として、水田稲作農耕の伝播と一般化に基いて成立した倭民族共同体の中心的地域であったことはいうまでも無い。  
（武智鉄二著 「舞踊の芸」より）



## NPO法人檜の会主催「伝統文化の精華」展の御礼挨拶

平成十八年九月九・十日の両日高台寺圓徳院に於いて開催しました「日本の文化・芸術総合展」には、大変多くの方々や観光客で盛会裡に閉じることが出来ました。茲にあらためて出展いただいたの方々を披露申し上げます、敬意を表しますとともに、会場を開放下さった圓徳院および奉仕の方々にも深く感謝申し上げます次第です。

### ※美術講演

演題 漆器（根來塗）

講師 河田 貞（佐川美術館常務理事・当会顧問）

### ※出展リスト 作品名（アイウエオ順）

#### ◇美術工芸

染色 春日井路子

伝統結び 川嶋美園

金箔 近藤正明

伝統結び 高取芙蓉弥

能面 長沢宗春

乾漆 山田豊子

◇芸能

雅楽 山田全一社中

一弦琴 大西一叡

白拍子舞 井上由理子

廊下Ⅱ道楽「越殿楽」、  
本尊前Ⅱ座楽「隻調北庭楽」

## 訃報

檜の会発足当時からの新谷哲夫さんが八月にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。